

第33回 経営協議会議事要録

日 時 平成22年10月28日(木) 13時30分～14時45分
場 所 事務局第二会議室
出席者 宮田亮平学長、三浦春政理事、井橋光平理事、
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、藤幡正樹映像研究科長、
石田義雄委員、高階秀爾委員、福井俊彦委員、中村胤夫委員
欠席者 滝 久雄委員、遠山敦子委員
陪 席 渡邊健二理事、北郷 悟理事、
田口榮一附属図書館長、杉木峯夫演奏芸術センター長

議題

1. 人事院勧告に関する給与改定方針について(案)

議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 役員報酬等について

議長から標記のことについて提案及び下記のとおり説明の後、審議の結果、承認された。

(説明)

① 本学規則において、役員の賞与と退職手当については、役員の業績を勘案し、標準額から増減できるとされている。しかし、国立大学法人評価委員会等から、その扱いについては経営協議会の議を経る旨を規則に定めるように求められているため、今年12月の賞与の支給に向けて、規則改正を進めたい。

② 上記①の運用にあたっては、各手当は標準額とし、増減を必要とする事由が生じた場合のみ、本会議に諮ることとしたい。

3. 中期計画の変更について(案)

議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

4. 東京芸術大学学長選考会議委員の選出について(案)

議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

5. その他 特になし

報告及び連絡事項

1. 平成21年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。

2. 平成21事業年度財務諸表の承認について
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
3. 第1期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る承認申請について
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
4. 中期目標期間の最終事業年度終了に伴う積立金の国庫納付について
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
5. 平成23年度収入・支出概算要求書〔予算積算上〕について
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
6. 国立大学法人運営費交付金「特別枠」の要望に係るパブリック・コメントについて
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
7. 会計検査院の改善処置要求について
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
8. その他
 - 美術学部長から、机上配付資料「G T S（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト」について報告があった。
 - 議長から、机上配付資料「藝大ARTS in東京丸の内」について報告があった。
 - 音楽学部長から、机上配付資料の各種演奏会について報告があった。

その他（助言、提言等）

- 海外では山林等を所有している大学も多く、大学としてどのように有効利用していくかという観点が大事である。
- 人事院勧告に準拠することもわかるが、一方で独自の決定権を持つ必要もあり、給与体系は芸大で作ることが望ましい。
- 旧国鉄民営化の利点の一つは、国の単年度会計に縛られないことである。国大法人も単年度や中期目標期間にとらわれない、もう少し弾力性のある予算決算ができるとよい。
- 独立行政法人である国立美術館も予算削減により人員も物件費も足りない状況である。努力して収入増を図ると運営費交付金が減額されるという矛盾がある。
- 芸術リサーチセンターについて、美術・音楽等の実技系であっても自分の作品等を語る必要がある。理論系の論文とは形は違っても論文は必要である。
- 円高の影響により、特にアジアからの留学生の困窮度が増していることが想像できるが、芸大として何か対策はとっているのか。
- 漫画等日本（人）の表現能力の国際評価が高まっており、今後芸大としてどのように対応していくかがカギである。